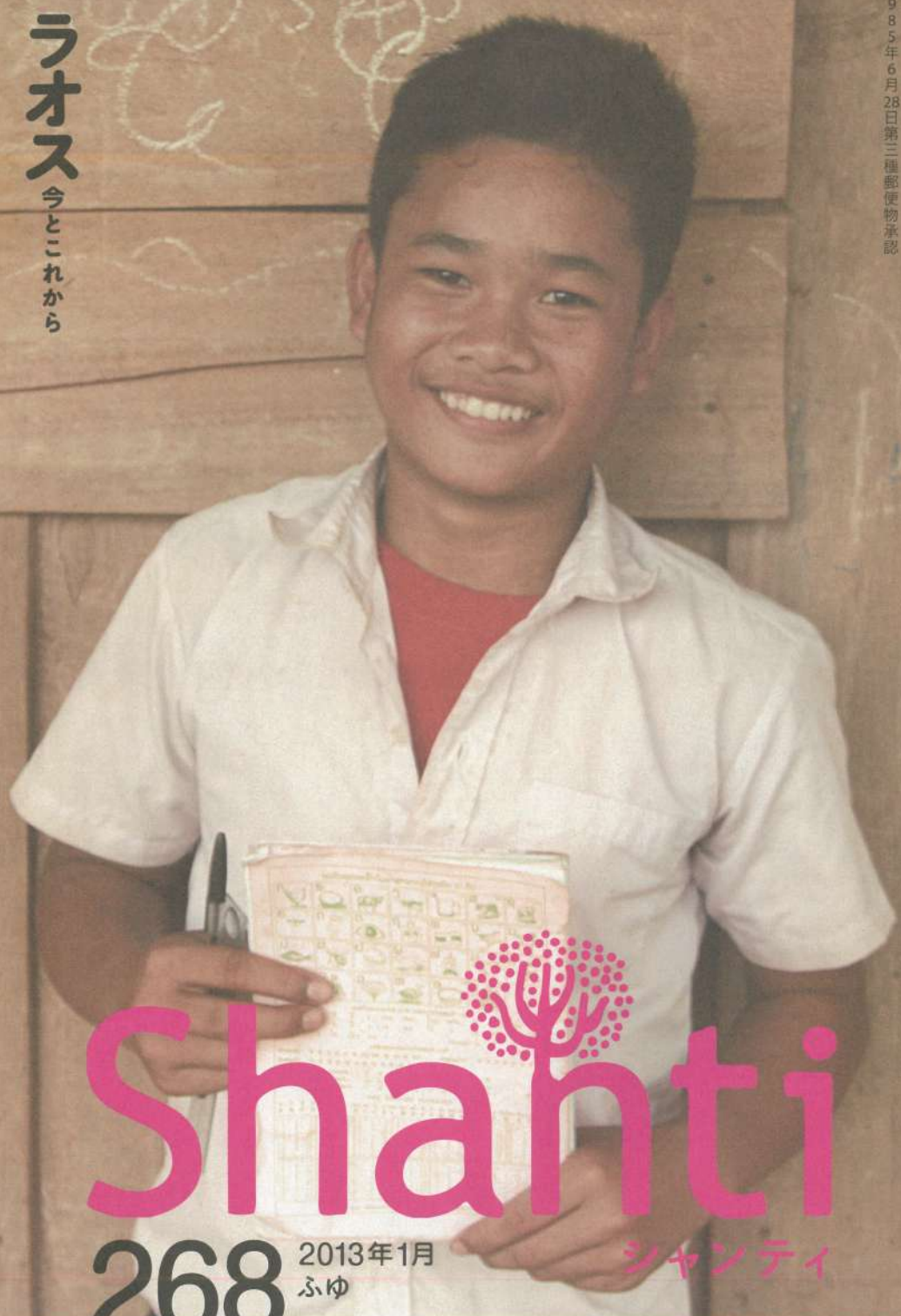


『シャンティ』通巻268号 2013年1月1日発行 (1・4・7・11月の1日発行)  
1985年6月28日第三種郵便物承認

ラオス  
今とこれから



# Shanti



268 2013年1月  
ふゆ

シャンティ

ラ オスの朝は早い。ほの暗い町を僧侶が托鉢に回り、寺の鐘がこだまします。空が明るくなる中、メコン河の広い河岸で体操に励んだり、散歩したりする人びと。そして、7時過ぎ、ヴィエンチャンは活気づいてきます。職場に向かう車の列、その合間をぬって走るバイクのエンジン音が通りを埋めています。

南アジアの経済成長の中、最貧国から脱しつつあるラオスですが、いまだ産業が育っておらず、経済は安定しているとはいえません。フランス植民地時代から、独立と内戦、現政権による革命と改革という激動の中で、国の社会基盤の整備が遅れていたためです。

農業国として人びとは穏やかに暮らしており、近年は「癒しの国」として欧米を中心に旅行者からの人気が高まっている一面も。

バランスの良い発展とはなんだろうか？ ラオスの町や村を訪ねると考えさせられます。

## Index

シャンティ 268頁 目次

### 4 定点観測…アジアから

タイ／カンボジア／ラオス

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ／アフガニスタン  
岩手／気仙沼／山元／東京

### 13 特集 ラオス 今とこれから

ラオスってどんな国？

わたしのぞみ／図書館について聞いてみた

対談 これからのラオスに必要なもの

### 24 民話絵本を読もう

ラオス民話「モーファックの息子たち」

### 26 シャンティな人たち

遠藤理恵さん（セールスフォース・ドットコムファンタジーシオン）

### 28 スタッフの昼ごはん ラオス

### 29 SVA・国内外の活動

### 30 日本しゃんていの旅 長野・安楽寺

### 31 おしらせ／編集後記

### 32 道 あのころのラオス 笹岡賢司



子どもたちがわたしを好きになってくれた!

報告：松尾久美（シーカーアジア財団/SVAタイランド）

タイ Thailand

ターク県でミャンマー（ビルマ）移民が通うニューウェーブ校のサナトウィ先生（27歳）は、ミャンマーからタイへの移民労働者のひとりです。教員になって3年目、彼女はシーカーアジア財団が2011年から実施してきた絵本と教材づくりの研修会にいつも参加してきました。

当初は、年配の教員の後ろから、控えめにじっと講師を見つめていましたが、その後、回を重ね、2012年7月に実施した研修会では、最前列で話を聞くようになっていました。研修会の後、学校に訪ねると、とても誇らしげにこう話してくれました。

「私が子どものときに受けた教育は、我慢して学ぶもので、自分もそのように厳しく教えてきました。しかし、シーカーアジア財団の移動図書館や、研修会を通して、子どもたちが楽しく学ぶ方法があることを知ったのです。子どもたちに多くのことを伝えてあげられる。こんな嬉しいことはないです。今では、子どもたちが、私を怖がらず、好きになってくれました」



「Library for All」新学期に向けた読書キャンペーン

カンボジア Cambodia

報告：竹谷麻莉子（カンボジア事務所）

2012年9月、カンボジアで読書キャンペーンが開催され、SVAカンボジア事務所も参加しました。

シエムリアップ州クチャ小学校で、「Library for all, All for library（みんな図書館を、図書館が大好き）」と掲げられた横断幕をもった子どもたちの行進から始まり、教員や政府関係者・住民代表から、図書館、読書の重要性についてのスピーチがなされました。

はじめてキャンペーンに参加した学校も、これまでの図書館活動の経験から、読書や図書館の大切さを知っています。「本を読むのに昼だけでは不十分、夜も読書しよう」、「図書館は知識の宝庫」、「からだには食べ物が必要、知識を得るには読書が必要」と書かれた旗も見られ、カンボジアにも少しずつ確実に図書館の存在が浸透してきました。

キャンペーンを通して声をあげることで、図書館への想いや期待は、学校、地域へとさらに高まっているように思います。自由読書の時間、子どもたちが一斉に図書館に駆けていく姿が印象に残りました。



たくさんの子どもに来てほしい

報告：鈴木淳子（ラオス事務所）

ラオス Laos

笑顔がたえないセンケーオさんはウドムサイ県立図書館の図書館員。図書館が開館すれば、それだけで多くの子どもたちが来ると思っていました。2011年初め一日に訪れる子どもは片手で数えるほど。

困った彼女はSVAが実施した研修会で習った読み聞かせの練習を開始。日中は図書館の壁に向かって、家に帰れば夕飯を食べている家族に向かって練習しました。

その努力を知ったカムシン図書館長が、図書館を管轄する情報文化局に「図書館で楽しい読み聞かせをしていることを県営ラジオで放送して下さい」とかけあい、その放送を聞いた親が子どもを連れて来るようになり、徐々に人数が増え、最終的には40人が来てくれました。

しかし少数民族の子どもたちが来てくれません。「図書館員が誰も少数民族の言葉が話せないからだ。この壁をどうにかしなければ」センケーオさんは少数民族の言葉話せる利用者を探しお手伝いをお願いしました。今では多くの言葉が行き交う図書館となりました。



メラ難民キャンプの図書館員サピレイさん

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ BRC

報告：シャンティボーン・カウナム（BRC事業事務所）

サピレイさんは、戦闘が続くミャンマー（ビルマ）のカレン州から幼い子どもたちを連れて1986年にタイ側に逃れてきました。身の回りのものだけ抱えメラ難民キャンプにたどり着いたとき、やっと安全な場所を見つけたらと安堵したそうです。

2002年、坂の上の第1図書館の担当になり、図書館の近くの保育所で毎日子どもたちに読み聞かせをしてきました。それから10年、読み聞かせの先生として頼られています。

「難民キャンプの中で学んでいきたい人に本を貸し出す私の仕事を誇りに思っています。この頃はからだの具合が良くありませんが、図書館員の仕事は辞めたくない。図書館に来て、子どもたちと一緒に遊んだり、本を読んであげたりすると、体の痛みなんて忘れてしまいますよ」

故郷を離れて26年間経ちました。「いつか家族と一緒に戻って、平和に暮らすこと、それが私たちの夢なのです」。その日を心待ちにしながら、今日も図書館で子どもたちのために読み聞かせをしています。



## 今なお紛争下に生きる子どもたち

報告：三宅隆史（アフガニスタン事務所）

アフガニスタン **Afghanistan**

紛争状況に生きる23カ国の子どもたちの状況について国連事務総長が「紛争と子ども」と題する報告書を発表しました。

それによるとアフガニスタンでは、2011年316件の子どもへの徴兵が確認され、8歳の女子を含む11人の子どもが自爆テロに使われました。少なくとも子ども20人がパキスタンに輸送、軍事訓練を受け再度戻されました。一方、アフガン国軍および警察も、交戦の危険がある検問所で、お茶くみやメッセンジャーとして子どもを使っています。

実に1325人の子どもが紛争に巻き込まれて死傷しました。このうち簡易爆弾により、123人の子どもが死亡し262人が負傷。また129人の子どもがアフガン国軍と反政府武装勢力の間の交戦によって死亡か負傷。さらに431人の子どもが数十年前に敷設された地雷や不発弾の犠牲となつて負傷しました。

35校が放火され、32校が脅迫等によって閉校に追い込まれるなど、残念ながら、子どもを取り巻く環境はいまだ過酷です。



## 子どもたちに普通の学校生活を

岩手 **Japan**

報告：古賀東彦（岩手事務所）

岩手では、仮設団地以外に、さまざまな場所で移動図書館活動を行うようになりました。たとえば、震災により校舎が使えなくなったため、県の施設を借りて授業を進めている小学校へも移動図書館車を走らせています。

「子どもたちには普通の学校生活を、普通を送りたい」とは、副校長先生の言葉です。学校図書室のままかわりにはなれないけれど、私たちもそのような「普通」のお手伝いを少しでもしたいと思っています。

また、夏休み期間には、子どもたちが読書感想文をまとめるお手伝いをしました。宿題の手助けというよりも、本を読む楽しさや、読んだ本の面白さを人に伝える喜びを知ってほしいと考えてのことです。

そのほか、イベントの場で移動図書館を店開きすることも。長時間続くイベントでは、図書館車での「立ち読み」がよい時間つぶしになるようで、好評です。

これからもいろいろな場所に出没し、「本ってやっぱりいいな」と感じていただけたらいいなと思っています。



### 思い出の場所、大谷海岸の砂浜を残したい

気仙沼 **Japan**

報告：里見容 (気仙沼事務所)

9月28日、気仙沼市本吉町大谷<sup>オホヤ</sup>地区振興会連絡協議会代表の大内守雄さんが「本吉地域震災復興計画」を気仙沼市に提出しました。計画の策定にあたり、SVAは早稲田大学の土方ゼミと協力し、大谷地区をはじめ、9地区の計画を図面にしていきました。地区によっては班ごとに声をかけ、ワークショップを開催、ていねいに地域の声を拾っています。この復興計画は、住民の意見として市のまちづくりに反映される予定です。

「問題は9・8mという防潮堤の高さ」と、大内さんは大谷地区全体の課題を語ります。宮城県が設定している防潮堤の高さでは、震災以前に海水浴場で賑わっていた大谷海岸の砂浜がなくなってしまうことが懸念されています。

「山側に防潮堤を後退させなければ、海水浴場は戻らない」。

どうにか砂浜を残すための案を練っています。今後は若い世代やまちづくりに関心のある人たちを集めて、大谷地区でまちづくりの勉強会を行っていく予定です。



### 子どもの笑顔、大人の笑顔

報告：古賀東彦 (山元事務所)

山元 **Japan**

活動地の山元町ではJR常磐線が寸断されたため通学・通勤しづらいと、町から引越す若い世代が少なくありません。南相馬市でも市外や県外に避難する方が多く、2011年春から翌年春にかけて、市内の小学生の数が半減したそうです。

子どもが少ない。それでも、移動図書館車で仮設団地を訪れると、遊びに来てくれる子たちはいます。

学校帰り、図書館車のボディに書かれた「立ち読み、お茶のみ、おたのしみ」という私たちの活動のキャッチフレーズを、声をそろえて読み上げ近づいてくる子どもたち。

図書館車に駆け寄り、「なんで夕方来るの？ なんで夜は来ないの？」と質問責めにする子。図書館車から絵本を持って来てはスタッフに読み聞かせ、クイズの本を持って来ては、スタッフに出題する子。じゃんけんをしようと何度もせがむ子。途端にその場が明るくなります。大人たちの笑顔も大きくなります。

私たちが元気に活動できるのは、子どもたちのおかげです。



「図書館は生きる力を吹き込む」

報告：清野陽子（東京事務所）

東京 Japan

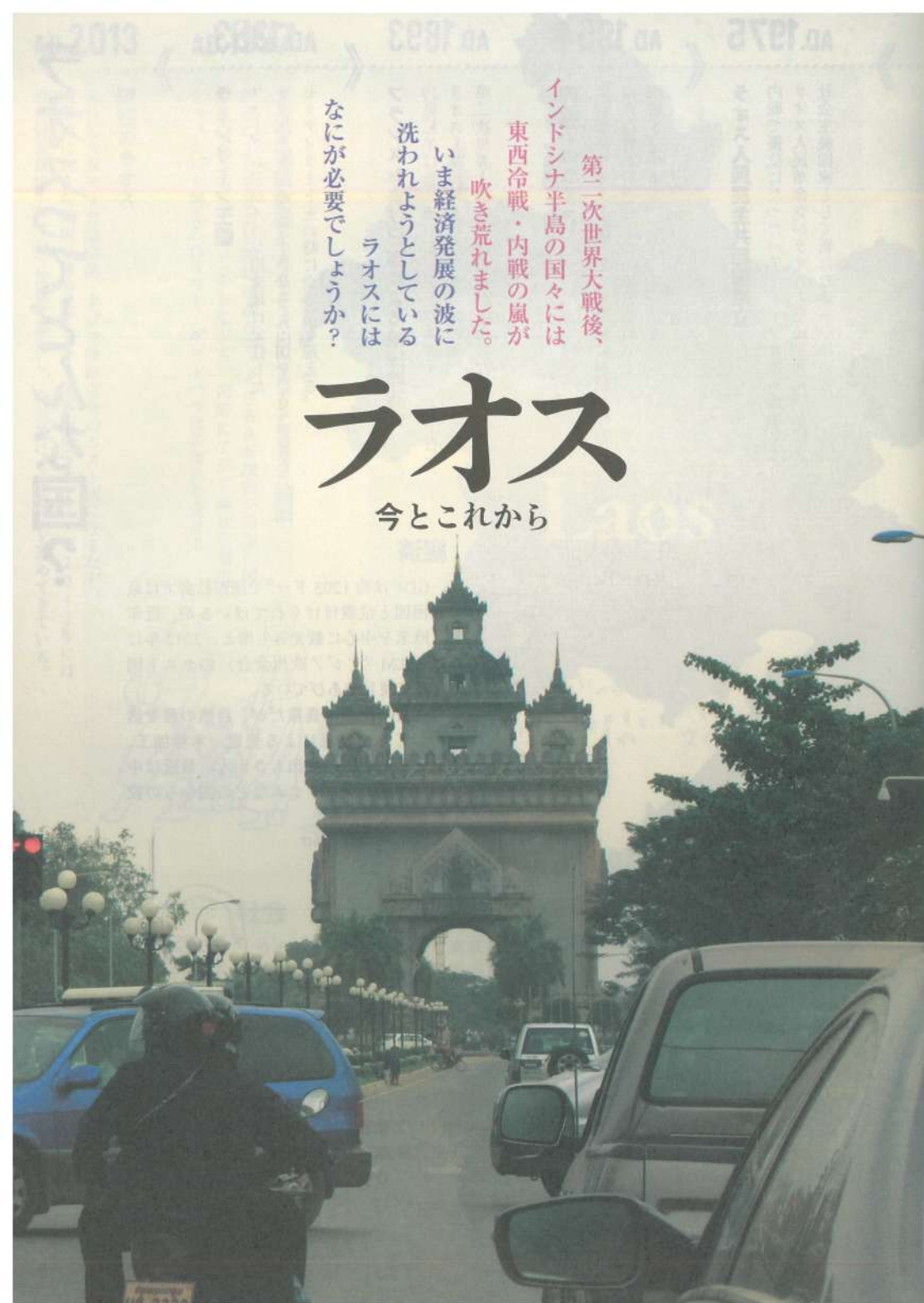
10月、計画予算会議のために所長が来日。まず、24日、「図書館は生きる力を吹き込む——ミャンマー（ビルマ）難民キャンプでの10年」と題して報告会を実施。セイラー副所長は、活動を開始した2001年から、SVAで図書館設立、図書館員育成などを行い、現在はコミュニティ図書館全体を統括しており、難民キャンプでの図書館について最もよく知っているスタッフです。参加者からは「キャンプの状況を承知しなければ理解できない活動であることを再認識した」「厳しい生活環境においては想像力、心の豊かさは生きる力となると思う」との感想をいただきました。

31日にはシーカーアジア財団のアルニー事務局長が「ミャンマー（ビルマ）国境の子どもたち」と題して、ターク県での移民学校への支援事業の報告を行いました。シーカーアジア財団では、タイ人職員のスラムでの図書館、保育園運営でつちかった図書館事業、幼児教育の高い専門性を生かして、より厳しい環境の移民たちへの支援を進めています。

第二次世界大戦後、  
インドシナ半島の国々には  
東西冷戦・内戦の嵐が  
吹き荒れました。  
いま経済発展の波に  
洗われようとしている  
ラオスには  
なにが必要でしょうか？

# ラオス

今とこれから



**現在のラオス**

ASEAN+3首脳会議、アジア欧州会合のホスト国になるなど、国際的に大きな役割を務める。ラオス証券市場もオープン。2012年には世界貿易機構(WTO)加盟を果たし、経済的にも国際化を進めてきている。

**アジア通貨危機とASEAN(東南アジア諸国連合)加盟**

国連による構造調整援助が進む中、ASEAN加盟が実現し国際社会の表舞台へ。しかしながら、同時にアジア通貨危機のショックにも翻弄されるなど、グローバル化の流れを受ける。



社会

日本の本州程度の面積に東京都より少ない人口が住むラオス。49の少数民族による多様性を持つ国家であるが、彼らが多く居住する農山村地域の開発や言語教育、女子や障がい者などのマイノリティ教育、全体的な教育環境の整備、広がる都市と地方の格差、周辺の大国による経済的・文化的影響からどうアイデンティティを守っていくかなど経済・社会・文化面でさまざまな課題を抱えながら、発展の歩みを進めている。



Laos



**ラオス人民民主共和国成立**

内戦で優位になったパテート・ラオ軍が政権をとり、ラオス人民革命党がラオス人民民主共和国を樹立。社会主義国家として新たな歩み始める。

**内戦下のラオス**

大戦後にラオス王国として国際的に承認されるが、東西冷戦を背景に2つの陣営の対立で内戦が発生する。



経済

GDPは約1203ドル\*で国際社会では最貧困国と位置付けられてはいるが、近年は欧米を中心に観光客も増え、2012年にはASEM(アジア欧州会合)のホスト国として注目をあびている。

主要な産業は農業だが、自然の理を活かして水力発電による売電、木材加工、コーヒーなどの輸出もさかん。最近では中国・韓国・ベトナムなどの国からの投資が増えている。

\*2011年推定値、IMF



ラーンサーン王国

フアグム王がメコン川流域に定住したラオ族をまとめてラーンサーン王国を設立。セタイラート王の時に全盛期を迎える。

フランスおよび日本による植民地時代

19世紀半ばよりカンボジア・ヴェトナムとともにラオスも植民地としたフランスの後、第二次世界大戦時には日本が統治した時代もあった。

政治

ラオス人民革命党による一党支配体制が続くが、2020年までに生活水準の3倍増、貧困削減などを目標に政経分離が行われている。



ラオスってどんな国？





**ノー** (飲食店 / 53 歳)

**A** 鍋とお玉  
**B** おいしい麺の打ちかたを研究して、メニューの数も増やしたい。将来は支店を出して自分の味を広めたいな。



**プーカン** (小学生 / 13 歳)

**A** ノートとペン  
**B** 将来は算数の先生になりたい。ヴィエンチャンの大学にいけないように、いまは勉強がんばります。



**テン** (主婦 / 21 歳)

**A** 農具  
**B** 素直でいい子どもを育てる方法が知りたい。いつか売店をやりたいので、経営のノウハウも学びたい。



**サン** (農家 / 20 歳)

**A** 農具  
**B** 豚やにわとりなど、家畜を増やしたい。いまは一生懸命世話をするだけでよ。



**ナンカム** (農家 / 68 歳)

**A** かごと草刈り鎌  
**B** コンクリート製の安全で快適な校舎、水道設備、診療所が欲しい。子どもたちが安心して暮らせる村に。



**プーミー** (村長 / 53 歳)

**A** 農具  
**B** 国道から村、村から学校までの舗装道路が欲しい。いまは雨が降るとぬかるんで大変なんだ。



**ヴィエンサイ** (校長 / 42 歳)

**A** かばん  
**B** 教員、村人と協力し、小学校の教育を良くしたい。家族のために、畜産、魚の養殖、野菜のできる農園と池が欲しい。



**スー** (隠居 / 63 歳)

**A** かごとナイフ  
**B** これまで通り、お隣さんをはじめ、村人と協力してやっていければいいねえ。

# わたしのぞのみ

チャンから、北部ルアンバーン県、ボリカムサイ県、南部サラワン県まで尋ねて歩きました。

「あなたの将来に必要なものはなんですか？」身の回りの道具を手に写真を撮らせてもらい、首都ヴィエン

**A** いま持っているもの ——— **B** これから欲しいものは？



**センペット** (教員 / 22 歳)

**A** ノート  
**B** シンや服の仕立て屋を開きたいと考えています。家族から仕立てを習いたいです。



**プアチャン** (かご職人 / 67 歳)

**A** 手作りかごと鎌  
**B** 膝まで水に浸かって川を渡っているの、橋が欲しい。安心して診療が受けられ、薬をもらえる診療所。



**ムア** (刺繍絵本売り / 39 歳)

**A** 布絵本  
**B** いまは子どもに頼んで図書館から本を借りているけれど、自分で本を探せるようになってもっと絵本を作りたい。



**スーイ** (村長夫人 / 45 歳)

**A** 農具  
**B** 村の女性同盟にもっと人が集まってほしい。田植えや稲刈りなどの仕事も人数が多い方が請け負いやすいからね。



**トンポーン** (ギフト店 / 40 歳)

**A** ぬいぐるみなど贈答品  
**B** タイ・ベトナムの雑貨をもっと増やしたい。新鮮な魚介を売るために大きな冷蔵庫が欲しい。お金を貯めているよ。



**ワンナリー** (ネットカフェ店長 / 27 歳)

**A** コンピュータ  
**B** 別の場所へ自宅を移して、自宅兼用で手狭だったネットカフェを広く改装したい。



**ティッパポーン** (小学生 / 9 歳)

**A** ノートとペン  
**B** 兵士になって村を守りたいの。算数も一生懸命勉強するよ。



**クットマノー** (飲食店 / 43 歳)

**A** 鍋とお玉  
**B** 食事だけではなく、音楽ショーもできるレストランにしたい。お金を貯め、スピーカーも買うつもり。

# 図書館について聞いてみた

「ラオスのより良い将来のためにどんなものが必要でしょうか？」  
ラオスきつての知識人であるコンドウアン先生と、ラオス人スタッフの意見を聞いてみましょう



ラオスの教育には「質」が足りない

カムコンさん (図書館・学校教育事業調整員)



一方で、長年に渡り、存在し続けているからこそ、生活の向上や夢の実現を妨げているものがあります。それは文化です。文化は良

ラオスは多くの国からの援助により、子どもたちが学習できる教室の数が著しく増えました。しかし、教育の質を改善するための対応不足により、貧しい家庭や少数民族の子どもたちが教育を満足に受けられていません。教育の質は教員への適切な研修と十分な教科書や教材の提供等によって改善されていくものだ

いこともたらしめてくれますが、逆もあります。女子教育を阻害しているのが文化であると思います。教育の質の改善への対応不足、公平を妨げる文化。これらの課題は人々が知識や情報を得ることによって解決されると信じ、SVAラオス事務所で公共図書館支援や学校教育支援に携わっています。



街には「コミュニケーション」が足りない

カムボンさん (図書館事業課 副調整員)



描くこと自体が難しくかつたのです。本を読むことは夢や将来を思い描けるよう育んでくれます。今のラオスは大きく変わりました。首都での生活は発展し、子どもたちの楽しみは、大人数での遊びから、一人で楽しむTVゲームになりました。ラオスに不足している心を育む本と、友だちとの会話を。それらは、今も昔も変わらず、図書館でみんなを待ち続けています。

過去のラオスと、現在では足りないものが変わりました。昔のラオスでは、国全体として読書の機会が足りませんでした。子どもたちが持っている知識は自然から学んだこと、学校に行っていた子どもは先生から教えてもらったことだけでした。その知識だけでは子どもたちは夢を実現する以前に、夢を思い



人生には読書と学びが必要なのです

コンドウアン・ネットボンさん

(元ラオス国立図書館長、現ラオス図書館協会会長)

35年前、国立図書館員となったコンドウアンさんは、図書館が知識の宝庫であり、人々に知識を授けることがその役割だと身をもって感じてきた。2010年に館長を退職後も、引き続き図書館協会会長として各地の図書館設立のため飛び回り、もともと学んだ建築学の知識で建設の確認まで行う。ラオスの図書館の発展に尽くしてきた第一人者であり、SVAの活動に欠かせない先生である。

ラオスでは15世紀からバリー語で仏教教義をヤシの一種の葉に写本した「バイラン」が栄え、それを所蔵する図書館が多くのお寺にあった。当時、ラオスは周辺国から僧侶が学びに来る地

域の知識の中心で、僧侶がお寺の図書館で読んだバイランからのおはなしを聞いて、人々は知識を得ていたという。これは今も仏教の日に寺で行われる講話につながっている。

「図書館はラオス社会に根づいていたのです。このラオス人が読書を好まないはずがないでしょう」

その後、戦争、内紛を経て、図書館もバイランも多くが焼き払われ紛失。僧侶も減少した。そこで、ラオスで読書を後押しするシステムが必要と考え、70年代に全国読書推進運動を立ち上げたが、国民の理解が低く結果は散々であった。国立図書館長として運動を再開した頃、

1992年、SVAがラオス国内で活動を開始し、共に運動に取り組んだ。  
「今度はSVAをはじめとする国際的支援が運動の後押しをしてくれた」と語る。

以前より読書推進が広がっている。けれど、「図書館」と社会の間には

まだ距離があると感じる。公共図書館は県から各地へ広げる必要があり、学校にも図書館が必要。政府は予算を配賦し実行に移さなくてはならない」と考える。



ng Societyにするのが目標なのよ。これは日本から学んだコンセプトだという。

「ビアラオを飲んでいるお金が

あったら、子どもに本を買ってあげるような社会にしなきゃね」と、ちゃめつけたっぷりに付け加えた。

聞き手：カムコン／訳：伊藤解子



### 伊藤 ひととよ

ラオス事務所長。1999年に入職、カンボジア事務所、東京事務所の勤務を経て2010年から現職。東京ではカンボジア担当、企画調査担当、緊急救援担当を経て、海外事業課長。

### 最近のラオス

**大** 私が最後にラオスを訪ねてから、もう10年以上たちましたが、当時はヴィエンチャン市内に番号もなく、朝夕少々混雑するくらいで、とてもおだやかでした。最近のラオスはいかがですか？

**伊** 朝夕の渋滞がすごいです。駐車場がなく、自動車税も高いのに、車をもつ人が増えています。今ものんびりしたところはありませんが、定期的なラオスに来る人は大きくなっています。

**大** かつては、タイのテレビの影響などで、タイ語とラオス語の区別がでない子どもが増えているとか、ラオス文化のアイデンティティについて懸念されましたが、現在、その点はどうですか。

**伊** もっと深刻になっているかもしれませんが、テレビから言葉覚えた子どもは外国語だと意識せずにタイ語を話していますし、親世代は「ラオ

## 対談 ◆ これからのラオスに必要なもの

「ス語がなくなる」という不安を抱えているようです。モノが溢れているヴィエンチャンと地方のギャップも大きいですね。ヴィエンチャンでは残念ながら麻薬を求めて若者が犯罪を起こすような事件も起こっています。でも、早朝に托鉢をする習慣は首都でも残っています。ワン・シン（仏教行事の目）には子どもを連れて寺院にお参りしていますし……。

### SVAラオスの現在

**大** SVAラオスの事業という点、私は謄写版の事業を思い起こします。電力が普及していないラオスにはびつたりの器材だったわけで、SVAらしい事業だったと思います。現在、取り組んでいる事業の様子について、教えてくださいいただけますか？

**伊** 2003年から公共図書館支援に取り組んで、今年で9年目になります。ラオスの半分は州に設置しました。公共図書館は「誰にでも

使える図書館」で、行政と連携して進めています。「図書館法」が整備され、大学に図書館コースができるなど、ラオス国内でも公共図書館の意義が認められています。「子どもの家」はモデル事業として立ち上げましたが、現在は郡レベルまで全国に普及しています。謄写版の製作、配布の時代は、何でもSVAが行う、という時代だったと思います。現在は、ラオス教育省との連携や運営支援という形で行っています。

**大** 他と連携し触媒の役割を果たしていく。そこが他のNGOと違う点です。

### アジアと日本の関係

**大** ところで、伊藤さんは学生時代に開発について勉強したということですが、SVAに入職するに至ったのは、どんないきさつだったのですか。

**伊** もともとは「アジアと日本の関係」に関心があつたんです。大学では経済を学び、韓国人学生との交流サークルに入っていた日本の戦争責任などに激論を交わしたりしていました。イギリスへ留学してからは、開発についてアフリカからアジアまで広く勉強しました。一緒に学んだ東南アジアの留学生からは、祖父母から聞いたという日本兵の行動について聞かされ、当時の日本の発展や支援に対して、独特の感情をもっていることがわかりました。日本のODAの問題点も強く感じ、将来はぜひ弱い立場の側に立つNGOで活動したいと思っていました。そんなわけでSVAに応募したのです。

**大** 開発というよりは、「日本とアジアの関

**大** 信仰心は根強く生活の中に生きているということですね。ASEM（アジア欧州会合）など、ラオスは国際社会へも積極的に参加しているように思えます。

**伊** 2009年にSEAゲーム（東南アジア競技大会）

### 大菅 俊幸

おおすが としゆき  
広報紙「ラオス」には96年〜2000年に6回、「増刊シヤンティ」の取材などで訪問。著書に「有馬実成評伝『泥の菩薩』」



係」に関心があったので  
すね。相手を尊重し合う  
国際協力＝日本とアジア  
の関係を求めてきた、と  
いうことになるでしょう  
か。

**伊** 今は亡き有馬さん  
(有馬実成元専務理事)が若  
い頃から、差別や搾取さ  
れている人を支援する活  
動をなさっていたことを  
知って、私はずっと求め  
てきたこととつながって  
いる思いがしました。

### 被災地とラオス

**伊** 話は変わるのですが、  
大普さんは宮城県石巻市  
出身で、東日本大震災の  
津波でご実家が被災され  
たと聞きましたか……。

**大** 実家の建物じたいは  
辛うじて大丈夫だったの  
ですが、墓地在壊滅的で

した。家を流された親戚  
が実家に3カ月ほど、避  
難生活をしていました。  
今回ばかりは被災者の体  
験もしましたね。

**伊** 私も昨年4月上旬に、  
SVAの気仙沼事務所の  
活動を手伝いに行きまし  
た。これまでバキスタン  
の被災地にも行ったこと  
がありますが、気仙沼の  
ような惨状は今まで見た  
ことがありません。ラオ  
スに戻ったら、私が日本  
人だとわかると、「大丈夫  
夫か」と知らない人でも  
声をかけてくれるんです。  
ラオス事務所の門番のリ  
ユウさんまで募金をくだ  
さって……。彼は給料も  
多くないので大変だった  
はずなのに……。

**大** ありがたいことです  
ね。それにしても荒れ野

値観や生き方の発見につ  
ながるのかもしれない。

それにしても一人ひと  
りのスタッフが夢をもつ  
て活き活きとして活動し  
ていることが大切ですね。  
その意味で、これまでの  
事業にこだわらず、こん  
なことをやってみたいと  
思うものを提案してほし  
い、すぐれたものには予  
算をつけます、というよ  
うなコンペを現地職員対  
象にできないものでしょ  
うか……。

**伊** そういふのがあると  
いいですね。ラオス事務  
所では、今、スタッフが  
ワークショップで今後の  
ラオス事業を考え始めて  
います。一人ひとりのモ  
チベーションが高まるこ  
とが大切と思っています。

出会うことで、新しい価

になった故郷を目の当た  
りにして思います。ゼロ  
からこの「くに」を作り  
直さなければならぬの  
だと……。経済大国とい  
うより、問題解決の先進  
国になっていく。それが  
これからの日本のヴィジ  
ョンではないでしょうか。  
アジアの人々には、東北  
の人々がこの試練を克服  
していく姿を見守ってい  
ただきたいですね。そこ  
から学んでいただけると  
のがきつとあると思うの  
です。

その意味でも、昨年、  
海外のスタッフが被災地  
に行つて交流したのは大  
きかったと思います。ラ  
オスからもミンチエンスタ  
ッフが参加してくれまし  
た。「被災者自身が、な  
お他人を助けようとする

### 今後に向けて

**大** 最後に、ラオスには、  
今後どんな支援が必要な  
のでしょうか。

**伊** ニーズはたくさんあ  
ります。SVAの限られ  
た人手や資金・設備など  
で何ができるのかという  
ことだと思えます。たと  
えば、ラオスには少数民  
族が多く、小学校を卒業  
してもラオス語が読めな  
いという人々が多い現実  
があります。でも、その  
改善に取り組むとなると、  
少数民族がいる県に張り  
つかないと難しいでしょ  
う。

それから女性や障がい  
者の教育の問題もありま  
す。そして公共図書館の  
運用管理については、ラ  
オス国自体の出版物管理

姿に、今までそういう人  
を見たことがないので、  
とても感激しました」と  
レポートしていましたね。

**伊** その時、私も同行し  
たのですが、津波で被災  
した大植町を訪ねたとき  
流されてしまった図書館  
について、元スタッフの  
田中さんが案内してくれ  
て、その説明が図書館へ  
の愛情に溢れていて、海  
外のスタッフはみんな涙  
しながら自分たちが活動  
している図書館を思い浮  
かべていました。心が一  
つにつながった時でした。

ミンチエンスタッフは何  
回も日本に行つていま  
すから、わがことのように  
受けとめています。ラオ  
スに戻ってから、「大き  
なかぶ」を日本語でやっ  
て良かった、自分にでき

の不足にはじまり、図書  
館管理・貸出システムの  
導入など多くの課題が残  
っていると云えるでしょ  
う。どこまでSVAが関  
われるのか、常に模索し  
ています。

**大** いずれにせよ、支援  
する側の固定観念を押し  
つけてはいけませんね。  
**伊** そう思います。メコ  
ン河を渡ったタイの図書  
館ですっかり普及して  
もラオスでは皆無な状態  
も多いです。支援のため  
には多角的な視点が必要  
なので、SVA内で東京  
と共に調査を実施し、提  
案する予定です。

**大** SVAラオスは昨年  
で20周年。これからもお  
互いに頑張りましょう。



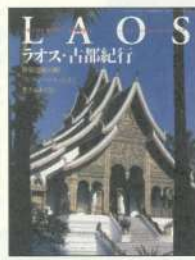
ラオスを知るための60章  
エリアスタディーズ85  
菊池陽子編著 明石書  
店刊/トピック別にラオ  
スの歴史・社会・経済・文  
化など簡潔にまとめられ  
ている。辞書のように使え  
る1冊。



ラオス経済の基礎知識  
鈴木基義著 JETRO  
刊/都市と農村の格差  
の要因を含め、近年高い  
GDP成長率を遂げるラオ  
ス経済を、ラオス研究の  
第一人者が、わかりやす  
く説明する。



ラオス すてきな笑顔  
安井清子 NTT出版刊/  
モン族の住む村で図書  
館活動にとりくむ元SVA  
スタッフの著者。出会った  
ラオスの人々との心温  
まるエピソードがいっぱ  
いです。



増刊ジャンティ1999 ラオ  
ス・古都紀行 SVA刊/  
広報の大管スタッフが現  
地取材し、知られざるラ  
オスの奥深さに迫る。伝  
統文化や風習を知ること  
ができます。図書館協会  
選定図書。

# モーファツクの息子たち

ラオス民話（2011年）



1

むかしむかし、  
人里はなれた村に  
子だくさんの家族がいました。  
お父さんとお母さんは  
けん命に働いていましたが、  
暮らしは日に日に  
貧しくなるばかりです。



3

「こんな乱暴な子ども  
にはたえられない」  
両親は子どもたちをみな  
森に置き去りにしました。  
息子たちはバラバラになり、  
末っ子は通りかかった  
植木屋に拾われました。



2

腹を空かせた息子  
たちは、自分のご飯を  
くれないと言って暴れます。



5

がっかりした両親が  
家に戻ると、お金が  
たくさん入った竹筒が  
床下にくりつけて  
ありました。



4

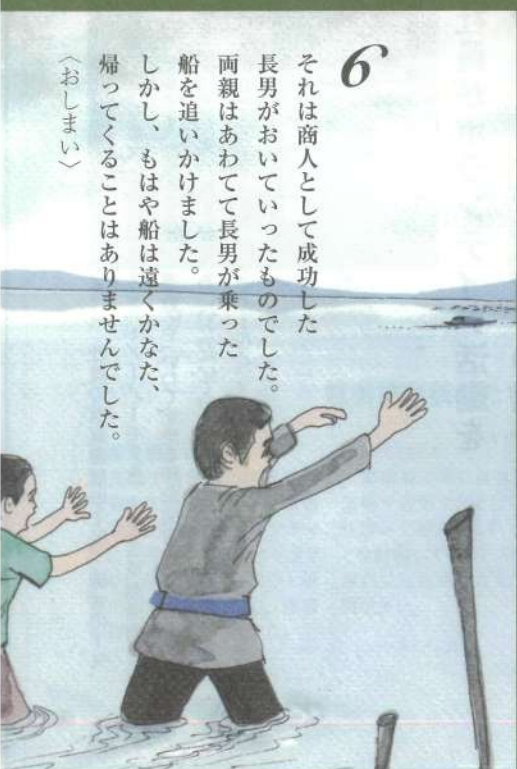
長い年月が経ち、  
たくわえができた  
両親は森に息子たちを  
迎えに来ました。

ところが、森に暮らして  
すっかり毛むくじやらに  
なった息子たちは、  
家に帰ろうとはしません。



6

それは商人として成功した  
長男がおいていったものでした。  
両親はあわてて長男が乗った  
船を追いかけました。  
しかし、もはや船は遠くかた、  
帰ってくることはありませんでした。  
（おしまい）



# シャンティな人たち

## शांति

vol. 60

遠藤理恵  
えんどうりえ

セールスフォース・ドットコム  
ファンデーション



## 社員がボランティア活動をつくりだす文化、その黒子として

「セールスフォース・ドットコム社は、社員の就業時間の1%、株式の1%、製品の1%を地域社会に還元する「1/1/1モデル」で社会貢献活動をしている企業です。「絵本を届ける運動」や「いわてを走る移動図書館プロジェクト」にも協力いただき、長くおつきあいいただいています。社員の社会貢献活動を支えるのが、遠藤さんが所属するセールスフォース・ドットコムファンデーション。その役割について伺いました。

遠藤さんがこの仕事を始めたきっかけは、2000年にロンドンで仕事をしていたとき。同僚がホームレスや難民の支援で自然にボランティアに取り組んでいたのに刺激をうけて、自分も帰国したら社会貢献の仕事をしたいと考えたそう。

帰国後は飢餓や貧困の撲滅に取り組むNPOに勤務。企業とのパートナーシップを担当、企業の社会貢献に対する姿勢に関心が深まった。縁あって、2007年5月、セールスフォース・ドットコムに入社。

「セールスフォース・ドットコムファンデーションの役割はセールスフォース・ドットコムのリソースをフルに活用して、ビジネスと融合した社会貢献活動を推進していくこと。たとえば、就業時間の1%を利用して社員がボ

ランティア活動をつくりだす文化があるので、それがよりインパクトのあるものに発展できるように支援しています」と語る。

入社研修のとき、新人社員にはどんな活動に興味があるのかも聞いておく。また社員から「こんな活動をしたい」と希望があったら、NPOに問い合わせを紹介するなど、社員とともにボランティアプログラムを作っている。継続してコミュニケーションが深まることに重点を置き、

単発ではなく長くつきあえる活動、団体との縁を大切にしている。

ボランティア活動は発案から企画実行まで社内の社会貢献委員会が中心となつて進めている。41人のメンバーはビジネスの経験も活かし、主体的にボランティアの企画・実行に取り組んでいる。

「社員が自分のボランティア活動をコラボレーションツールChatterで紹介、それを見た他の社員

に関心が芽生えて広がっていくよい連鎖が生まれること。活動を通して部署を超えたつながりもできます」。

「いわてを走る移動図書館プロジェクト」支援では、仮設住宅の高齢者のため、大活字本の提供、ブックカバーをつける、貸出用バッグにアイロンプリントするボランティアなど、新しいプログラムを生み出した。「SVAとは多角的にいろいろなつき合いができています。いままでにないもの

と一緒に作っていくというSVAスタッフからの提案が嬉しい」。これからもパートナーシップを深め、活動を続けていきたい。

## 社会貢献委員たちの声

佐藤光明さん

被災地で積極的に復興支援活動している。2012年は岩手事務所の運営ボランティアに3回通うなど、どっぷりSVAに浸っている。同僚と積極的に活動することで、部署の雰囲気が変わってきた。

西本幸代さん

人事面接の際には社会貢献活動が企業文化としてしっかりDNAに組み込まれていることを説明している。特に若い世代に活動意欲が旺盛な社員が多い。

關口崇さん

「絵本を届ける運動」で子どもたちに楽しませてもらえることが嬉しいので、きれいに貼りたい。同僚に社会貢献活動の意義を伝えるパイプラインになればと思う。



写真:Salesforce.com Foundation

東京

東北 (岩手・山元・気仙沼)

海外

9月

8月～10月31日 アジアの図書館サポーター入会キャンペーン/7日 国際識字デーイベント「アフガニスタンの識字」

5～6日 岩手事務所山元事務所スタッフ研修/13日 気仙沼事務所・岩手事務所予算会議/21日 日本図書館協会東日本大震災被災地図書館支援情報交換会/21日 浜松市「寺院地域防災ワークショップ」/26日 山元町で移動図書館車第一回運行/28日「震災復興計画」気仙沼市へ提出

7月下旬～9月中旬 カンボジア、ラオス、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ「海外NGO研修プログラム」/上旬～下旬 2013年計画予算について東京事務所とのスカイプ会議

10月

4日 東京事務所計画予算会議/6～7日 日比谷公園「グローバルフェスタ」に出展/14日 新宿区「芸協らくごまつり」に出展/15～18日 2013年度事業全体計画予算会議・調整会議/19～20日 報告会「クラフト生産者を訪ねて」/2日だけのクラフトショップ/24日 報告会「図書館は生きる力を吹き込むーミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの10年」/27日「NGO海外研修プログラム」報告会、説明会/31日 報告会「ミャンマー(ビルマ)国境の子どもたち」

17日 大槌町で「遠野語り部イベント」/25～26日 全国図書館大会島根大会で報告「移動図書館活動を通じた東日本被災地支援」古賀東彦/27日 鳥根県松江市で報告会「図書館は、国境をこえる～SVA30周年の歩みと、走れ東北!移動図書館プロジェクト報告会」

15～18日 2013年度事業全体計画予算会議・調整会議に所長が出席、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ事業事務所副所長セイラーが訪日/22～11月2日 ミャンマーで新規事業形成の準備調査/22～11月1日 シーカーアジア財団アルニー事務局長、松尾が訪日

11月

中旬～12月20日 クラフト・エイド「2つのおくりもの」キャンペーン/1日～1月31日 リサイクル・ブック・エイド「大掃除でイイコト」キャンペーン/20日～1月31日 冬の募金キャンペーン/20日～22日 パシフィック横浜の図書館総合展に出展

20日～22日 図書館総合展で移動図書館車展示/22日 図書館総合展で報告「いわてを走る移動図書館プロジェクト活動報告と今後の展望」三木真冴・津田千亜希

上旬 ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで「難民子ども文化祭」/8～15日 アフガニスタン事務所ワヒド副所長、ナセルが訪日/17日～24日 ラオス「ラオス20周年記念スタディツアー」/21日 ラオス事務所20周年記念式典/23日 カンボジアノンベン郊外のスラムへ緊急食糧配布/28日 アフガニスタン政府経済省より活動に対して表彰を受ける

12月

1日 築地本願寺で「SVAのつどい」、講演会「どうか図書館が/ばくのそばから/なくなりませんように」、理事会

15～19日 カンボジアにおいて海外事務所合同リーダーシップ研修

これがワタシのチカラになる!



# スタッフの昼ごはん



ラオスの職員さん、今日のお昼はなんですか?

総務経理課  
ローさん

学校教育支援  
事業課 オイさん

図書館事業課  
カンボンさん



ラオスの食卓に欠かせないタム・マークフン(春ババイヤサラダ)。シャキシャキと食感が良く、唐辛子も効いています。

主食は種類やごはん。今日はクア・ミー・ワイワイ(焼きそば)です。

ニヤム・マークキヤン・ニヤイ。ナンブラー、唐辛子、しょうがとはっさくを和えたもの。おやつ感覚で食が進みます。

週2日は自炊、他の日はラオス料理や麺類をお手伝いさんを買ってきてもらい、台所で食べます。わたしの好きな食べ物、オムレツ、ライスヌードルを使ったカオソソイとカオビヤック。同僚と一緒に食べる昼ごはんはとても楽しく、いつも笑いが絶えません。事務所では、教育省からデータを集めたり、報告書を書いたりしています。また、毎月出張して校舎建設が滞りなく進んでいるか確認します。住民や行政とともに問題解決できた時が一番嬉しいです。(オイ談)



မာမာမာမာ စော-ရာ-လီ (とてもおいしいよ〜)

2013年度総会のお知らせ

2013年度総会を下記の通り開催いたします。社員会員の皆さまには3月初旬にご案内と資料をお送りしますので、よろしくお願いたします。総会での議決権は社員会員の方のみですが、賛助会員の皆さまにもご出席いただけます。賛助会員の方にはご案内を同封しますのでご覧ください。

日時：2013年3月23日(土) 13:30～  
【主な議題】2013年度事業報告・決算報告について、2012年度事業計画案・予算案について

お引っ越しして本やゲームを片づけたい方は

SVAリサイクル・ブック・エイドでは「お引っ越しキャンペーン」を3月31日まで行っています。本やDVDはご自宅まで宅配業者が取りに伺い、送料もかかりません。

お申込み・お問い合わせは、SVAのホームページ、または電話03-6457-4585(土日祝日は休み)までどうぞ。

人事のお知らせ

●契約形態の変更

江口秀樹……カンボジア事務所 NGOジュニアプログラムオフィサーから、契約スタッフへ(2012年11月15日付)

●退職

貝澤麻衣……カンボジア事務所 契約スタッフ(2012年10月31日付)

「絵本を届ける運動」より御礼申し上げます!

2012年10月の「シャンティ」秋号付録をご覧いただき、お申込みくださった皆さま、ありがとうございます。23名の方々から、67冊のご協力をいただきました。

2012年度分の絵本はまもなく日本を旅立ち、2013年3月末までには活動地に到着の予定です。ご協力いただいた皆さまには、4月にご報告書をお送りします。

冬募金にご協力お願いいたします

子どもたちの手にあるものが武器ではなく、未来を切りひらく勇氣、希望、知恵を育む「本」であって欲しい。SVAの活動を支える「アジア子ども募金」にご協力をお願い致します。1月31日まで受け付けています。

郵便振替口座 00100-7-559298  
加入者名 SVAアジア子ども募金  
※この口座への送金手数料は免除されます

編集後記

5年ぶりに誌面のつくりをあらためました。この5年のあいだ、気仙沼・岩手・山元事務所が増え、国内外の活動にも変化がありました。新コーナー「シャンティの旅」では日本全国のご協力者を紹介し、「スタッフの昼ごはん」では各国スタッフのランチの様子を覗きます。今後もよりわかりやすい誌面を作るよう努めていきます。ぜひご感想をお寄せください。(清野陽子)

シャンティ 2013年冬(通巻268号)

2013年1月1日発行  
発行人 若林恭英  
発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220  
WEB: http://www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp  
郵便振替 00150-9-61724

編集人 関尚士  
装丁・レイアウト 矢萩多聞/イラスト 清原笑子(p14-15)  
印刷 株式会社大川印刷  
©2013. Shanti Volunteer Association. All Rights Reserved. Printed in Japan.  
●当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。



日本  
しゃんてい  
な旅

長野県・別所温泉 安楽寺



●八角三重塔(国宝)  
拝観料 大人300円 小人100円  
拝観時間 3～10月8～17時  
1～2月8～16時

●周辺の見どころ  
北向観音(徒歩5分) / 常楽寺(徒歩6分) 別所温泉観光組合  
TEL0268-38-3510



●アクセス  
長野新幹線・しなの鉄道線上田駅にて上田交通別所線にのりかえ、別所温泉駅(所要25分)下車。駅から900m(徒歩15分またはタクシー)

「信州の鎌倉」と呼ばれる別所温泉。冬には雪景色、春は新緑と山菜、秋には紅葉と地物の松茸。山の幸が豊富で、静かな温泉街のなかに安楽寺はあります。鎌倉時代に創建された安楽寺はSVA会員、「国際ボランティアの寺」としてご協力下さっています。八角三重塔は禅宗様式の塔としては国内最古。1289年に伐採された木材が使用されていることが確認されています。木造建築は屋根の葺き替えなど手入れが必要ですが、地域の人手入れが必要ですが、地域の人手

の手で守られてきました。「塩田北条氏が滅亡した後も、700年間、風雨に耐えて、塔が残されてきたことは奇跡だと感じている」と若林住職。山腹にたたずむ三重塔と静かに向きあい、心落ち着くひとときを過ごしませんか。休日の9時から12時まで、安楽寺婦人部「沙羅の会」がボランティアで「SVAクラフト・エイド」の販売もしています(12月から3月下旬までは寒いので販売はお休み)。 広報課 清野陽子



# 道

卷末言

今やどこの国の現場も  
インターネットで一目瞭然である。  
しかし、言葉や臭いや雰囲気は  
現場に行かなくてはわからない。



あのころのラオス

理事

笹岡賢司

日本国内で広く展開したカ  
ンボジアへの「慈愛の衣類を贈

る運動」が終了した1992年、ラオスへの支援が始まった。パ  
ンビナイ難民キャンプから始まっ  
たラオスのモン族への支援は安  
井清子さんが山岳民族の現場で  
「絵本の読み聞かせ」を継続して  
いた。ラオスへ入国するにはメ  
コン川を船で渡ったり、木造の  
駅舎のような小さな空港に、ビ  
デオ機器までビザ申請をするこ  
う複雑な環境に、初代ラオス  
事務所長の吉川氏は四苦八苦の  
連続だったと聞く。

当時のラオスは電気が通ってい  
ない地域が多く、印刷機の原点  
である謄写版は教材づくりに画  
期的なことだった。謄写版を作  
るため8平方kmもある大きな工  
場が出来て、そこに働く現地スタ  
ッフも大勢育った。原紙を切るに  
は少し手間がかかるが、微妙な  
感覚が出来映えに反映する。印  
刷物ができあがった感動から各  
地の学校で歓声をあげた。

そして、当時は日本からのス  
タディーツアー参加者が、現地で  
謄写版と一緒に製作したので、

スタッフとの思い出が多い。そ  
のひとつ、懇親会でのお酒「ラ  
オラオ」は誰もが忘れられない  
ひと味ではなかったか。仕事中  
は言葉が少ないスタッフも、懇  
親会になると得意になって我々  
に飲ませて仲良くなった。そし  
て、数年後には彼等を日本に招  
聘するまでになった。謄写版活  
動は支援者と現場が共に汗をか  
く良き活動と交流であったと思  
う。

振り返る20年、今やどこの国  
の現場もインターネットで一目  
瞭然である。しかし、言葉や臭  
いや雰囲気は現場に行かなくて  
はわからない。

私に活動のエネルギーを与え  
たのはスタッフと日本からの訪  
問者が共に学ぶスタディーツアー  
であった。今後もSVAにはス  
タディーツアーを企画し、現場で  
共に汗をかき草の根運動を展開  
して欲しい。また全国各地活動  
者が企画するスタディーツアーに  
も期待したい。

(静岡原・龍谷寺住職)